



源氏物語巻下





源氏物語緒卷 年立

九九集 与政右大臣

梅枝卷

春之御元服ウラハの為三月のモヤ名水モヤ皇太后御前

正月廿日源氏君合セ意物ウラハ給ウラハ

二月十日皇太后モヤ文系モヤ六条院モヤ給ウラハ

權近院モヤ送ウラハ意物ウラハ源氏モヤ給ウラハ

御方モヤ合ウラハ意物ウラハ各ウラハ被ウラハ御ウラハ源氏モヤ皇太后モヤ文系モヤ御前モヤ

御院モヤ皇太后モヤ源氏モヤ御前モヤ上モヤ御ウラハ意物ウラハ源氏モヤ皇太后モヤ文系モヤ御前モヤ

御院モヤ皇太后モヤ源氏モヤ御前モヤ上モヤ御ウラハ意物ウラハ源氏モヤ皇太后モヤ文系モヤ御前モヤ

御院モヤ皇太后モヤ源氏モヤ御前モヤ上モヤ御ウラハ意物ウラハ源氏モヤ皇太后モヤ文系モヤ御前モヤ

御院モヤ皇太后モヤ源氏モヤ御前モヤ上モヤ御ウラハ意物ウラハ源氏モヤ皇太后モヤ文系モヤ御前モヤ



明名始君入内廷行四月

中洞度より山方より

内侍より

共部心交来六重院

山方より

人々多物給

六月丙午正壽院帝古方葉集延比古今

集等給

内大臣及思敷雲井房始志給

源氏若敷朝子宰相中給

内大臣及云雲井房給給時々自宰相中將

女房之也

藤原葉卷

宰相中将志雲井房給

三月九日大宮山忌日内大臣及系給

旁同系

内大臣及引宰相中将袖誘引給

四月一日比叡苑内大臣以中將為引役招宰相

中將事 庚四月七日事

源氏志下賜直衣於宰相中將事

宰相中將向内大臣事

内大臣物給給
及中將引守宰相中將事

宰相中將奉後朝又於女房

源氏又教訓宰相中將給

八日灌佛事

紫上侍賀賀形給

同、賀茂、宗、見、物、給、事、賀茂、宗、見、物、給、事、

右内侍、宗、出、立、而、夕、方、宰相、中、納、言、物、給、事、

事、右内侍、惟光、女、也、

七、余、日、明、石、始、若、入、内、七、余、日、明、石、始、若、入、内、

給、事、

三、日、之、後、宗、之、退、明、石、上、系、内、三、日、之、後、宗、之、退、明、石、上、系、内、

明年、源、氏、志、可、有、四、十、九、明年、源、氏、志、可、有、四、十、九、

秋、六、条、院、准、大、上、天、皇、秋、六、条、院、准、大、上、天、皇、

夕、方、中、納、言、賜、夕、方、中、納、言、賜、

雲井、后、乳、母、六、位、宿、世、と、云、り、人、也、

夕、方、後、任、三、条、殿、夕、方、後、任、三、条、殿、

左、改、大、后、派、三、条、殿、左、改、大、后、派、三、条、殿、

十月、九、余、日、六、条、院、行、幸、十月、九、余、日、六、条、院、行、幸、

朱、雀、院、清、幸、事、
於、馬、場、殿、有、競、事、

奏、池、宴、并、雜、奏、池、宴、并、雜、

養、蒙、卷、上

朱、雀、院、湯、觸、朱、雀、院、湯、觸、

梅、壺、女、御、梅、壺、女、御、

長、文、新、登、朱、雀、院、長、文、新、登、朱、雀、院、

奉、當、中、納、言、奉、當、中、納、言、

夕、方、今、年、十、九、夕、方、今、年、十、九、

の、り、の、り、

朱、雀、院、朱、雀、院、

御乳母六条院傳方中并三宮傳方中并三宮

太政大臣三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

三宮傳方中并

三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

三宮傳方中并

女三宮三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

秋好中宮三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

去年三月日三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

六条院三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

又之日女三宮三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

早業

若業上

女三宮三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

正月廿二日三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

依朱蔭院三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

女三宮三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

案上三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

源氏三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

女三宮三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

源氏令三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

源氏畫三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

朱蔭院三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

朱蔭院三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

源氏三宮傳方中并三宮傳方中并三宮

女房中納言若才和泉前司別當子他友

尚約對面子悟世上下子

明心女御自反比治留出六条院子

南少殿东西乃中座業上は言入海り給て此對面
あり女三女より同對面あり

源氏入業上子智方子

明心女御業上女三宮未若乃人子

十月業上為六条院中於強職中堂法皇

業所記事

廿三日於二条院之由變子 院後庭放出有子

十二月乃余林院中交乃源氏由變七太寺由海院

夕秀中納言但大将子

自由裏賜六条院中突事

夕秀大将由乃院長
所由あり

早二集

若菜上

正月一日始明心女御由府中行事 年十四

二月明心女御後明心由所中對給子

明心后志母上子女御由物給子

三月十余日女御由府中事

七日教自由内由府中事

明心入乃文道母志子 須山志子同遊志

明心上泰女御由方身見入乃文若子

業上奉抱若宮事

源氏若見及文若子

業上子明心上由中事

大將忠女三宮あり

柏木右衛門等女三宮あり

三月廿六日院を遷す

大將忠女三宮あり
又か慶長を遷す

右衛門等自出給ふ
又女三宮あり
右衛門等抱猫す
食樹餅を飲酒す

右衛門等女大將因車退給あり

右衛門等女小侍候あり又女三宮あり

善業下

右衛門等女三宮為病事

三月廿日六条院より舎り

右衛門等女三宮御申あり又女三宮御あり

同を猫給あり

大將忠女三宮御あり

外御あり
柏木あり

甲二系

甲三系

甲四系

甲六系

甲八系

此書初よりして年記をくさるるなりて
の所内位もけりせ給く十八年日ありせ
給ぬと云々冷泉院は位もつと給てこのり
と云々十八年日ありと云々
保氏甲二より甲六までの事物語見え
えぶらべしと云々年日色くさるる
と云々御の中この事ありと云々

去宮受禪事 今上乞之

大政大臣上致仕表事

藤原良房大將任大納言攝政事

六条女御出後一宮立坊事

夕雲大將任大納言事

十月九日六条院任若侍事

女三宮叙二品給事

紫上養明石出版女一文給事

花女里出大將若内侍後三品給事

為明年朱雀院女中出家人之男給事

源氏尊教於女三宮給事

今上在位
四十七年

若菜下卷

正月十九日女樂事

の志良色は紫上和琴の志良御
筆女三品給事

御方々花給事

源氏若菜夕雲大將若音曲給事

其歌源氏若後紫上封給物給事

紫上三品給事

わりの御と早業少女多し

夕方後女三宮出方給事

自院方紫上痛胸給事

三月紫上後二条院給事

右邊の御中細女嫁與朱雀院女三宮事

若菜下卷也

右衛門督打落小侍候志事

四月十余日御辨事、右衛門督志事、三

条、日右衛門督往吟、前、後、事、千、一

六条院、女三、文、日、業、上、儀、入、仍、立、均、給、事

物、給、出、次、事、六、条、山、息、而、重、事

案、上、内、交、戒、事、類、類、事

六月、比、業、上、女、強、事

女三、自、六月、比、懷、妊、事

源氏、女三、文、御、方、給、事

右衛門督、又、小侍、候、事、見、女三、文、別、辨、首、強、事

源氏、未、崩、一、次、及、付、商、議、事

源氏、海、二、条、院、給、事

小侍、候、源氏、女三、文、御、方、給、事

源氏、又、後、女三、文、御、方、給、事

二、条、尚、付、御、方、給、事、源氏、女三、文、御、方、給、事

朱雀院、御、方、給、事、女三、文、御、方、給、事

山、門、邊、女三、文、御、方、給、事

十二月、十、余、日、御、方、給、事

右衛門督、御、方、給、事、不、奉、源氏、御、方、給、事、右衛門督、御、方、給、事

右衛門督、御、方、給、事、二、条、院、御、方、給、事、右衛門督、御、方、給、事

明、女、御、方、給、事、又、生、男、御、方、給、事、白、文、是、事

早、歲、白、文、三、条

柏、木、卷

右衛門督、御、方、給、事

大將、奉^ル女^ニ於^テ女^ニ之^ニ事^ニ 一
 後、大將、傳^ル葛^ノ木^ノ山^ノ路^ノ者^ノ事^ニ
 大將、傳^ル小^ノ侍^ノ後、傳^ル見^ル女^ノ之^ニ事^ニ
 女^ニ三^ノ宮^ノ生^ル男^子ノ^ノ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 女^ニ三^ノ宮^ノ對^テ面^シ源^氏之^ニ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 山^ノ門^ノ俄^レ後、大^ノ將^ノ院^ノ給^ル女^ノ三^ノ宮^ノ給^ル事^ニ
 女^ニ三^ノ宮^ノ落^ル髮^ル事^ニ 由^テ氣^ノ次^ノ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 大^ノ將^ノ傳^ル大^ノ納^ノ云^ル事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 大^ノ將^ノ若^シ見^ル大^ノ納^ノ云^ル病^ノ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 福^ノ木^ノ大^ノ納^ノ云^ル死^ニ去^ル事^ニ
 三^ノ月^ノ若^シ若^シ又^シ十^ノ日^ノ事^ニ
 源^氏見^ル見^ル若^シ天^ノ侍^ノ事^ニ

大^ノ將^ノ傳^ル大^ノ納^ノ云^ル病^ノ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 大^ノ將^ノ傳^ル大^ノ納^ノ云^ル死^ニ去^ル事^ニ
 大^ノ將^ノ傳^ル大^ノ納^ノ云^ル病^ノ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 大^ノ將^ノ傳^ル大^ノ納^ノ云^ル死^ニ去^ル事^ニ
 大^ノ將^ノ傳^ル大^ノ納^ノ云^ル病^ノ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ

早^ノ九^ノ卷
 横^ノ笛^ノ卷

福^ノ木^ノ大^ノ納^ノ云^ル一^ノ月^ノ忌^ノ大^ノ將^ノ院^ノ由^テ備^テ給^ル事^ニ
 大^ノ將^ノ院^ノ獻^ル華^野卷^ノ於^テ入^道宮^ノ給^ル事^ニ
 源^氏兄^ノ又^シ若^シ事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 若^シ若^シ握^ル華^野給^ル事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 大^ノ將^ノ傳^ル一^ノ條^ノ宮^ノ給^ル事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ
 若^シ若^シ贈^ル物^ノ給^ル事^ニ 兼^テ大^ノ將^ノ之^ニ事^ニ

八月九日大將向小野務山息不病押入雲山方路

明日還カ六条院東御殿給カ

大將を消息カ一三条宮事

河圖梨律師信申大將カ山息不病カ

山息不病少將君回大將カ少將君陳カ

夕方山息不病宮御物給事

大將奉文於一三条山息不病カ山息不病カ

大將復後三條殿カ雲井唐物給事

言井唐物給事山息不病カ明日大將求カ大將依次日不出小野先事カ大將監為役

一三条山息思煩宮カ一俄絶入事

自願カ一三条宮給事

山葬送日大將少將又御京カ

九月十三日大將復小野給事

御京之次カ一三条御京給事

六条院園大將カ一三条宮中事

大將君系六条院カ一三条山息不病カ

付是御云一三条山息不病カいんらん

ふこのふ今カいんらんカいんらん

いんらんカいんらんカいんらん

去年卒去カいんらんカいんらん

一三条宮後任一三条故事大將カいんらん

一三条宮後任カ大將位東冠南面給事

三条御人カ園此子カ御京事

大將暫位六条院カ花敷里山方物給事

表紙幸ハミとせ乃
わろくしとく米雀流山
ははの時山息不病の若や
うろくしとく細田流

大將降三系辰雲升房志
雲升房号山方遠渡又大殿終
大將降三系殿留守終
大殿獻消息於一系宮許
右内侍送文於雲升房許
右内侍雲升房二人山後男女終

六十一系 董四系

佛法卷

紫上病惱不中後清如家眼終
三月十餘日紫上供養上カモリ部法花終
於二系院上カモリ
紫上送消息於明石山方
白文為山後

法會畢各還六系院終

及二系院病惱明之中交終

紫上與白宮市物終
對梅橋下終

秋紫上病惱柳城終
源成中交山物終

八月十日明方紫上卒去

六系院作大將志令為紫上ニカシラ山後終
空腦

紫上葬送事
六系院出終

致仕大臣訪六系院終

秋好中文訪六系院終

六十二系 董四系

幼卷

去兵部以交春六条院給事

六条院恩給事

中納言局中納言局准御前給事

中納言局准御前給事

二月對前紅梅盛事

旬交堂二条院梅花給事

六条院後入道交給事 若宮子若君准御前

夕暮後明石山方給事

明日是消息於明石山方事

二月一日自花教里獻更衣裝束事

條目与中將若君賜答奇事

六月十四日大將若君儀出前給事

六月見池蓮給事

七月御前裁給事

八月十六日總上二周忌信長格束昇院給事

事 中將若君書奇給事

九月見菊御給事

十月時由空房修後事

十一月六日御日大納言若君中將若君人少納言若君

事院事

幕首若六条院秋道素徳之備事

破回及古給事

御佛名事 守師給事

雲隱寺八名無名是傳氏若崩給事

友信娘又體ケニシテ

以櫻ウツク花ハナ為カサモテ其カサ墓ツツミ賜タマフ之ヲ

源人少將タケノリノサマ恒トシ居カミ之ニ事ニ

源人少將タケノリノサマ會アヒ婦メノ若カ事ニ

源人少將タケノリノサマ來キ友信娘トシノリノサマ許ヨシ其カサ婦メノ若カ事ニ

又マタ中ナカ將ノサマ房ノ述ツケ懷ノ之ヲ

四月シツグヒ上ノ鴈ガ連リ於ニ高タカ信ノ前ノ申マカ念ヒ人ノ事ニ

中將ナカノサマ許ヨシ其カサ婦メノ若カ事ニ

九日クニノヒト由ヨリ婚コト後ノ婦メノ若カ事ニ冷ヒヤ泉ノ院ノ治シ之ヲ

母ハハ若カ同トシ事ニ給ル之ヲ

之ノ日ノ源人少將タケノリノサマ遣ツケ清ノ息ノ古ノ中將ナカノサマ許ヨシ事ニ

高タカ信ノ之ノ事ニ給ル之ヲ

源信タケノリ後ノ常トシ泰ノ泉ノ院ノ治シ之ヲ 天アメノ花ハナ之ノ事ニ

其ノ日ノ源人少將タケノリノサマ婚コト後ノ婦メノ若カ事ニ

源タケノリ門ノ中將ナカノサマ逆サカシ婦メノ若カ事ニ 院ノ治シ之ヲ

自ヨリ七ノ月ノ冷ヒヤ泉ノ院ノ治シ之ヲ 息ノ不レ婦メノ若カ事ニ

源信タケノリ後ノ泰ノ泉ノ院ノ治シ之ヲ

十六トウジツ年ノ 林ノ但ノ右ノ中ノ將ノ又ノ仁ノ事ニ相ノ

横 竹タケ河カハ卷ノ

正月トウジツ男ノ踏フミ奇ノ事ニ 泰ノ泉ノ院ノ治シ之ヲ

源信タケノリ後ノ泰ノ泉ノ院ノ治シ之ヲ 院ノ治シ之ヲ

四月シツグヒ院ノ息ノ不レ婦メノ若カ事ニ 女メノ信ノ之ノ事ニ

中將ナカノサマ若カ入リ内ノ讓ノ与ニ高タカ信ノ之ノ事ニ 高タカ信ノ之ノ事ニ

女メノ信ノ之ノ事ニ 出デ家ノ之ノ事ニ

司兵部御卷

秋原信房任右近中将

院内信加降し秋原信房任右近中将

源中将冷泉院中設曹司

母女之文依念佛行

源中将頼我身那去來院

源中将有異香

信姫卷 宰相中将

宇治八宮女よゝ二人

姉妹の事

東之義上極行

以上事當年

信姫卷の暎れは云はせ
ハ信姫の事なりと云はせ
之事ハ足利信満ノ事也
宰相中将とあり十九歳
其の事後ハ心せつゝ
つゝ三ヶ年なりとあり
之秋の事ハ信満ノ事也
又十月はありとあり

あり其十九歳より廿二歳
の事なり其後廿三歳
より十八歳中々の事と
あり不審
細流云其の年とて其年
紀とありと云はせ
名ハ三ヶ年の事あり
其十九年より廿二歳の事
中々の事なりとあり
愚按此信満の事ハ
三ヶ年の事ハ川推事
の後なりとあり

信姫卷

宰相中将

宇治河内村系冷泉院
宰相中将信満
冷泉院付河内村系
宰相中将信満
信満の事

宰相中将信満

信満の事

秋末優待安塞宮後河内村系

宰相中将信満

信満の事

人海茫茫... 比巴撥... 見... 老人形... 月日... 文... 宇治... 右... 將... 監... 西... 役...

兼中將系共... 宇治... 宇治... 宇治...

十月二十六日... 兼中將系... 宇治...

合... 宇治... 中將... 比巴

八宮... 中付中將... 宇治...

院... 宇治... 宇治... 宇治...

海... 宇治... 宇治...

十九日... 林... 中將...

白... 宇治... 卷...

兼... 中將... 叙... 宇治...

此... 宇治... 宇治... 宇治...

少... 宇治... 宇治... 宇治...

心... 宇治... 宇治... 宇治...

是... 宇治... 宇治... 宇治...

わ... 宇治... 宇治... 宇治...

子... 宇治... 宇治... 宇治...

始... 宇治... 宇治... 宇治...

白... 宇治... 宇治... 宇治...

兼... 宇治... 宇治... 宇治...

夕... 宇治... 宇治... 宇治...

於... 宇治... 宇治... 宇治...

梅... 卷...

梅... 宇治... 宇治... 宇治...

宇治... 宇治... 宇治...

系殿女御中老之母をく南殿三木柱之姫を云ふ二男
子一人お貞名^{ウツナ}ありては女子一人を云ふ白雲のうらぬ^{ウツクモ}は
姫宮名^{ウツクモ}東宮^{ウツクモ}は^{ウツクモ}中老十七八に唐室を^{ウツクモ}

中老^{ウツクモ}与^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}姫^{ウツクモ}云^{ウツクモ}一^{ウツクモ}海^{ウツクモ}を^{ウツクモ}
ひきよ^{ウツクモ}ま^{ウツクモ}と^{ウツクモ}源中^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}と^{ウツクモ}ら^{ウツクモ}り^{ウツクモ}あり
く^{ウツクモ}源中^{ウツクモ}物^{ウツクモ}と^{ウツクモ}り^{ウツクモ}く^{ウツクモ}し^{ウツクモ}く^{ウツクモ}あ^{ウツクモ}り^{ウツクモ}又^{ウツクモ}右^{ウツクモ}右^{ウツクモ}左^{ウツクモ}左^{ウツクモ}
大臣^{ウツクモ}按^{ウツクモ}家^{ウツクモ}大^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}但^{ウツクモ}右^{ウツクモ}大臣^{ウツクモ}す^{ウツクモ}い^{ウツクモ}は^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}り^{ウツクモ}
但^{ウツクモ}中^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}り^{ウツクモ}日^{ウツクモ}時^{ウツクモ}す^{ウツクモ}く^{ウツクモ}それ^{ウツクモ}は^{ウツクモ}久^{ウツクモ}勢^{ウツクモ}と^{ウツクモ}右
大臣^{ウツクモ}と^{ウツクモ}り^{ウツクモ}く^{ウツクモ}は^{ウツクモ}梅^{ウツクモ}中^{ウツクモ}と^{ウツクモ}按^{ウツクモ}家^{ウツクモ}大^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}
書^{ウツクモ}約^{ウツクモ}道^{ウツクモ}の^{ウツクモ}墨^{ウツクモ}筆^{ウツクモ}の^{ウツクモ}前^{ウツクモ}の^{ウツクモ}も^{ウツクモ}く^{ウツクモ}され^{ウツクモ}ん^{ウツクモ}ん^{ウツクモ}ぞ
源中^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}とい^{ウツクモ}り^{ウツクモ}く^{ウツクモ}は^{ウツクモ}建^{ウツクモ}治^{ウツクモ}と^{ウツクモ}同^{ウツクモ}年^{ウツクモ}乃
事^{ウツクモ}なり^{ウツクモ}あ^{ウツクモ}り^{ウツクモ}て^{ウツクモ}源中^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}とい^{ウツクモ}り^{ウツクモ}く^{ウツクモ}梅
紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}ら^{ウツクモ}り^{ウツクモ}く^{ウツクモ}は^{ウツクモ}後^{ウツクモ}に^{ウツクモ}人^{ウツクモ}の^{ウツクモ}う^{ウツクモ}く^{ウツクモ}あ^{ウツクモ}り

梅家^{ウツクモ}大^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}折^{ウツクモ}梅^{ウツクモ}花^{ウツクモ}の^{ウツクモ}道^{ウツクモ}子^{ウツクモ}若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}を^{ウツクモ}は^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}

アノ^{ウツクモ}事^{ウツクモ}

兵^{ウツクモ}部^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}姫^{ウツクモ}君^{ウツクモ}不^{ウツクモ}承^{ウツクモ}引^{ウツクモ}中^{ウツクモ}老^{ウツクモ}の^{ウツクモ}法^{ウツクモ}事^{ウツクモ}

按^{ウツクモ}家^{ウツクモ}大^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}又^{ウツクモ}按^{ウツクモ}梅^{ウツクモ}家^{ウツクモ}に^{ウツクモ}於^{ウツクモ}る^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}

若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}名^{ウツクモ}を^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}る^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}は^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}

自^{ウツクモ}若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}八^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}姫^{ウツクモ}君^{ウツクモ}若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}中^{ウツクモ}侍^{ウツクモ}

物^{ウツクモ}紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}ら^{ウツクモ}り^{ウツクモ}梅^{ウツクモ}の^{ウツクモ}道^{ウツクモ}子^{ウツクモ}若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}

秋^{ウツクモ}乃^{ウツクモ}事^{ウツクモ}なり^{ウツクモ}

行^{ウツクモ}河^{ウツクモ}卷^{ウツクモ}

若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}乃^{ウツクモ}宰相^{ウツクモ}中^{ウツクモ}侍^{ウツクモ}なり^{ウツクモ}

紀^{ウツクモ}云^{ウツクモ}ら^{ウツクモ}り^{ウツクモ}梅^{ウツクモ}の^{ウツクモ}道^{ウツクモ}子^{ウツクモ}若^{ウツクモ}美^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}の^{ウツクモ}宗^{ウツクモ}念^{ウツクモ}繼^{ウツクモ}宮^{ウツクモ}

ひ^{ウツクモ}く^{ウツクモ}ら^{ウツクモ}り^{ウツクモ}し^{ウツクモ}と^{ウツクモ}ら^{ウツクモ}り^{ウツクモ}宰相^{ウツクモ}中^{ウツクモ}侍^{ウツクモ}なり^{ウツクモ}

三十一卷の終に源氏物語のついで
年のまゝに宰相の中納言とあり

三位中納言行川左大臣女ハスメヲ事

ハスメヲ 三位中納言行川左大臣女事
三位中納言行川のついでに女事あり

人々昇進事 夕霧左大臣女事 夕霧左大臣女事

以推本卷考之此除目八箇年終事也

源中納言之系玉鬘勢前尚侍申事

前尚侍院山息而不安事 里居

红梅右大臣大寮長清戸共事

前尚侍謂红梅右大臣与高直相妬事

大寮長明日宰相中侍系前尚侍申事 宰相中侍

推本卷 宇治二

愚案は多し年之如此雖致
凶謀被之義被橋姫巻
事當在竹川之後推本
之前也

推本の細流云著は二の
去より次の年れ三乃
去りしなり不周之極
然るに年之立花も情
よの三年のお遠りり
十九卷のせりらぬも
後抄の依れに家お遠る
し

二月廿日比白兵甲の文海御事

帰系に次ぬ宇治事 夕霧左大臣女事

宇治八宮進清息於菫中侍事

白文又給る事

菫中侍伴人々泰八文合物事

白宮進清息於宇治宮事 中君書山也

藤大納言泰事

宇治文御女事 河津若中君也

其秋宰相中納言事 竹川若末御事

七月源中納言事

高直君在事 物事

大姫君引事

源中納言之逢并、悉物給事
兵部官常通書於源中
善林八官為由念弘、物御書給事
自念弘之疎信、於由八官病癒
八月九日、夜中八文覺給事
源中納言中、官中、致事給事、給事給事
九月、自、文、紅、紫、遠、途、為、給事
自、文、幸、消、息、お、つ、給事、大、非、志、事、中、給事
早且、自、文、又、幸、由、又、於、給事、給事、給事
中、源、納、言、中、納、言、之、奉、給事、給事
如、志、御、封、給事、給事、給事、給事
源中納言之封、自、文、次、物、給事、給事、給事、給事

曉天源中納言、自、官、同、車、還、給事
明日、自、官、中、又、遣、給事、給事、給事、給事
源中納言、三、日、後、解、給事、給事、給事
及、源、更、自、文、奉、給事、給事、給事、給事
九月、十、余、日、源、中、納、言、奉、傳、自、文、於、給事、給事、給事
其、中、官、可、事、源、中、納、言、給事、給事、給事、給事
此、事、之、事、中、納、言、給事、給事、給事、給事、給事、給事
あ、ま、り、と、給事、給事、給事、給事、給事、給事、給事、給事
と、後、つ、給事、給事、給事、給事、給事、給事、給事、給事

十月一日、昔、自、文、為、給事、給事、給事、給事、給事、給事
由、中、納、言、中、納、言、給事、給事、給事、給事、給事、給事
不、言、源、中、納、言、給事、給事、給事、給事、給事、給事

細流五津等之譜
抄為廿三卷

九卷 中納云

推平卷

今治那志生中納云之事 年事云

去初自河雲梨^ナ許^キ執^シ并^ヒ願^フ於^テ今^ノ治^ノ定^ム云^ク
花^ハ以^テ向^テ文^ヲ送^リ消息^ヲ於^テ今^ノ治^ノ云^ク
其^レ中^ニ文^ヲ責^メ根^ヲ源^ヲ中^ニ納^シ云^ク
三^ノ條^ノ文^ヲ燒^キ亡^シ入^リ道^ヲ交^ヒ報^シ去^リ來^リ流^ル云^ク
去^リ月^ノ其^レ自^ラ源^ヲ中^ニ納^シ云^ク出^テ今^ノ治^ノ給^テ自^ラ障^ヲの^レ正^シ其^レ
非^ズ云^ク

總前卷 今治云

秋^ノ字^ヲ治^メ八^ノ文^ヲ一^ノ周^ヲ忘^ル法^ヲ云^ク事^ナ
源^ヲ中^ニ納^シ云^ク治^メ今^ノ治^ノ給^テ事^ナ
各^ノ者^ヲ源^ヲ總^ニ前^ニ角^ヲ云^ク白^ク文^ヲ
由^テ今^ノ治^ノ申^テ石^ヲ老^シ人^ナ

因中文同會者... 治... 消息...

凡大古及六君... 治... 消息...

其... 治... 消息...

昔... 治... 消息...

源中納云... 治... 消息...

中... 治... 消息...

十月廿日... 治... 消息...

十一月... 治... 消息...

作河... 治... 消息...

源中納云... 治... 消息...

源中納云... 治... 消息...

今治... 治... 消息...

物... 今... 此... 對面...

明日源中納言... 於... 事

源中納言... 在... 事

之... 引... 事

夜... 事

明... 事

源中納言... 事

源中納言... 事

八月廿八日... 事

文... 事

源中納言... 事

向... 事

昔... 事

者... 事

年... 事

去... 事

九二... 事

早... 事

正月... 事

源中納言... 事

物... 事

二月... 事

除... 事

活... 事

中... 事

細... 事

後位日事

二月七日... 一日... 二日... 三日... 四日... 五日... 六日... 七日... 八日... 九日... 十日... 十一日... 十二日... 十三日... 十四日... 十五日... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日...

二月七日... 一日... 二日... 三日... 四日... 五日... 六日... 七日... 八日... 九日... 十日... 十一日... 十二日... 十三日... 十四日... 十五日... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日...

廿余日中納言... 下... 上...

夕雲... 下... 上...

源中納言... 下... 上...

...

宿本巻

夕雲... 下... 上...

夜母女御... 下... 上...

早九日... 下... 上...

秋末... 下... 上...

...

宿本巻の抄... 早蕨の... 推卒の... 早蕨の... 早蕨の...

夕雲... 下... 上...

掃家... 下... 上...

...

...

...

廿三巻

宿本巻

...

...

...

...

...

宿本巻... 早蕨の... 早蕨の... 早蕨の...

八月源中納言權左衛門尉三條院右近衛中納言
大次郎左衛門尉

十六日若宮御所御事
三條院中若御御事

明日若宮御所御事
三條院中若御御事

三條院中若御御事
三條院中若御御事

若宮御所御事
三條院中若御御事

三日御所御事
三條院中若御御事

源中納言右衛門尉三條院右近衛中納言

若宮御所御事
三條院中若御御事

若宮御所御事
三條院中若御御事

中納言御所御事
三條院中若御御事

又三條院中納言御事
三條院中若御御事

陽丁御所御事
三條院中若御御事

若宮御所御事
三條院中若御御事

源中納言御所御事
三條院中若御御事

源中納言御所御事
三條院中若御御事

源中納言御所御事
三條院中若御御事

中納言御所御事
三條院中若御御事

九月廿五日源中納言御所御事
三條院中若御御事

源中納言御所御事
三條院中若御御事

源中納言御所御事
三條院中若御御事

源中納言御所御事
三條院中若御御事

故宮中御所御事
三條院中若御御事

於宮治折葛印案三條院御事

其ノ以テ之ニ申忍マ文也事

菊、盤、其、於、心、宮、ら、中、君、合、物、事

夕、芳、大、后、各、二、条、院、給、事

廿四日 正月任於大納言通大將

看本卷

自正月廿日中、君、御、給、事

直物、旧、源、中、納、言、御、權、中、納、言、通、大、將、事

各、二、条、院、各、二、条、院、給、事

於、六、条、院、被、大、將、御、給、事 其、心、通、後、給

二月、二、条、院、中、君、御、生、男、事

御、生、養、事 其、心、通、後、給

廿四日、余、女、養、事、二、宮、御、當、家、事

其、心、通、後、給

御、門、賜、御、文、於、大、將、母、後、入、道、事

宮、事、忍、事、十、日、事

大、將、二、条、院、見、宮、事、忍、後、事

三月、廿、日、御、門、御、給、事、忍、事

為、花、宮、事

御、賜、物、事、御、後、事、大、將、賜、天、立、文、事、御、後、事

御、之、の、せ、ら、の、大、納、言、事、忍、後、事、御、後、事

人、と、お、ひ、ら、う、事、忍、後、事、御、後、事、御、後、事

紅、梅、を、居、之、け、人、女、二、宮、の、母、御、當、家、の、女、御、後、事

事、忍、後、事、御、後、事、御、後、事、御、後、事

二、宮、と、え、事、御、後、事、御、後、事、御、後、事

お、せ、ら、の、大、納、言、事、忍、後、事、御、後、事

御、後、の、家、事、忍、後、事

東屋巻の抄云松云宮姫
君八手君也中將君八手
習君の母帝陸かの妻

東屋巻

其和女二之退か大将三系之文

四月大将出立治造中事

大將出立見り居る對面大將殿事
大將消息事

中將君母宮姫君

中將君御婚文姫君御婚文少納言

大將御婚文非書陸君

御婚文大將御婚文

のいし御婚文

大將御婚文

大將御婚文

大將御婚文

大將御婚文

大將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

中將御婚文

貴隆也書^金連車立^身三乘流^方廊方^心交
尺外^女結^中

中君信湯^ニ給^ミ

中宮^ヲ見付^テ姫君^ヲ押^シ對^シ面^ス

中宮^ノ胸^ノ痛^ム中人^ノ告^ル中^ノ事^ヲ

中君^ノ嘆^シ姫君^ノ物^ヲ給^ル

乳母^ノ行^キ貴隆^ノ久^ク語^リ交^ハ報^ル事^ヲ

貴隆^ノ及^テ系^テ二系^ノ流^ノ伴^ノ姫君^ノ流^ノ事^ヲ

三系^ノ道^ノ貴隆^ノ及^テ物^ヲ給^ル

貴隆^ノ及^テ後^ヲ萩^ノ新^ノ送^ル事^ヲ少^シ得^ル事^ヲ

宮^ノ姫^ノ君^ノ在^リ三系^ノ家^ノ流^ノ給^ル母^ノ上^ニ送^ル事^ヲ

秋^ノ末^ニ大將^ノ及^テ出^テ治^ル尺^ノ報^ル送^ル山^ノ堂^ノ給^ル

大將^ノ折^テ系^ノ花^ノ油^ノ系^ノ甘^ノ人^ノ女^ノ二^ノ交^ル

大將^ノ車^ヲ於^テ治^ル連^ル弁^ノ居^ル弁^ノ居^ル三系^ノ

九月^ノ十三日^ニ大將^ノ及^テ系^ノ家^ノ連^ル弁^ノ居^ル

引^テ入^ル車^ヲ子^ノ連^ル姫^ノ君^ノ

大將^ノ伴^ノ姫^ノ君^ノ流^ノ事^ヲ后^ノ志^ノ侍^ノ及^テ君^ノ回^ル車^ヲ

大將^ノ及^テ系^ノ及^テ於^テ女^ノ二^ノ交^ル若^シ佛^ノ飾^ノ三^日送^ル

為^ル事^ヲ

浮舟卷 定治七

若^シ及^テ系^ノ不^レ忘^ル宮^ノ姫^ノ君^ノ給^ル

大將^ノ及^テ系^ノ中^ノ不^レ遠^ル若^シ給^ル

女^ノ系^ノ大將

浮舟卷

咲^ル死^ル細^ク濟^ス世^ヲ為^ス
廿六年

正月定治、始者、秋付、小松城、始者、即、越、未、於、
二条、若、子、白宮、又、其、又、同、始、者、

其、初、心、宮、怪、思、大、將、之、治、通、百、大、内、記、通、定、
四、路、大、内、記、治、事、及、其、事、大、内、記、為、大、將、家、
司、舞、之、事、也、

其、初、心、文、百、具、大、内、記、案、内、之、事、治、
治、自、法、性、寺、每、年、奉、馬、之、
宮、治、大、將、之、他、和、入、始、者、
將、之、他、和、入、始、者、
始、者、思、也、

其、翌、日、宮、通、為、始、者、
未、明、其、下、之、文、治、二、条、院、始、者、
母、為、石、山、治、事、軍、事、也、
始、者、思、也、

大、將、系、其、部、心、文、始、者、
二、月、大、將、治、事、始、者、
十、日、内、古、他、文、事、

十、日、内、古、他、文、事、

親、之、の、事、也、始、者、
不、事、ら、め、始、者、
と、し、と、し、
と、し、

と、し、
と、し、
と、し、

共、心、之、文、始、者、
始、者、
伴、女、事、并、治、事、
始、者、

又、之、日、治、事、送、女、奉、宮、白、宮、治、事、
宮、治、事、大、將、心、文、同、始、者、
大、將、可、治、事、始、者、
白、兵、乃、之、宮、今、月、廿、日、可、治、事、
治、事、

白、兵、乃、之、宮、今、月、廿、日、可、治、事、
治、事、

母、若、子、并、以、其、未、知、宮、思、通、子、治、始、者、
始、者、

母、若、子、并、以、其、未、知、宮、思、通、子、治、始、者、
始、者、

若君欲投身事テハ

宮内使左将右使行會守居大將内改身付テ

見送文内使由系大將申上テ子納ヲ

共初心文於其書整一不尺及テ子納怪見事

大将内改身申前致其心ト宮内使知文ヲ

大将是文於守居報落付ト中給事

昨若君死入大将ト内改身一ヲ事

侍従与右左内務及二文ト女急務ト若君

大将内令人内侍御守居守居事

昨若君死入立焼文ト中

若君之文是内文也ト仍自文也守居知事

宮内使侍後系敷行騰文之對面位テ

若君ト文守居事

文守又之ト元後嗣事

母若君死入急可持給之申送文ト若君と夜玉御ヲ

情鈴卷 守居八

四月守居若君投身事

宮内使系守居内改身若君若君は池油系ト

时方為宮内使仍向守居ト子急侍候若君

母若君同子細事

車載若君系衣裳家未往向山境ト上ト表

葬送事

大将殿七ケ日系葬石山先遣役ト守居

若君文歎思守居ト守居ト大将訪系ト

情鈴卷之抄云々細流暎花等ニ云々守舟若君投身の翌朝より四月は守舟のよわく守舟のまは三月廿七日八日のまは守舟の四月のまは守舟の

精給式^{カクシ}の宮薨大^ス為^ル服^{コト}事

大将以^テ言^ハ治^メ始^メ事^ヲ治^メ共^ニ之^ヲ治^メ

六月大将缺^キ守^ル也^ハ共^ニ治^メ事^ヲ

自^ラ官^ニ在^リ時^ニ方^ニ之^ヲ治^メ古^ク道^ニ之^ヲ治^メ

右と云ふ事仍治事也 攝^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将殿^ニ言^ハ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将殿^ニ言^ハ律^ニ作^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将殿^ニ言^ハ文^ニ書^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将殿^ニ言^ハ古^ク母^ニ上^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

云々

軍^ニ九^日佛^事律^ニ作^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

考^ル以^テ文^ニ律^ニ盡^ス納^ル金^ニ送^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

白^ク事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将念^ハ人^ノ一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ

明^ニ中^ニ文^ニ律^ニ作^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将自^ラ言^ハ方^ニ之^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

女房を敬承す 大将念^ハ人^ノ一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ

大将禮^ニ女^ノ二^人宮^ニ不^レ知^ル一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ

大将系^ニ中^ニ文^ニ律^ニ作^ル事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将殿^ニ言^ハ一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ

一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

大将と小宰相と 自^ラ官^ニ在^リ時^ニ方^ニ之^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

自^ラ一^人不^レ文^ニ女^ノ房^ニ小^ノ事^ヲ相^ニ治^メ事^ヲ治^メ

被^レ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ事^ヲ治^メ

昔の言又違侍は物落し
情鈴式カケトリの文姫君連れ中文山方給し身
昔の言又違侍は物落し

大将素中文治立妻カケトリ一不天弁志与中物志

戲言事

中将君引筆大物戲治カケトリ人将引和琴

情鈴式カケトリの文姫君連れ中文山方給し身

大物素中文治立妻一不天弁志与中物志

手習巻 宇治丸

横川僧如母后并ニモトハセ妹長谷法師宿宇治治

宇治治樹下有変化を弄又之也妹后養生

宇治任人來詣如而物落宇治治如志先給

手習巻細流去薰七六
七葉のよく晴鈴巻
の始と同時の落
のよく聖見れり
喉孟回

子細そのいささの難事ともいふ

つり物とていふいささつり物とていふ

然別は巻と情鈴始同時のよと並り

聖とて一は情鈴巻の一向。京のよ宇治

子あさりより手習巻の小時のほりて

小舟へわてりしとよりほりて

あよりりて二巻は同時の事とより

設車二枚載件女名海小舟事

四月間を女船給し

信如妹后女古聲中将傍横川僧如

小舟より 自薦陸中将尺女事 丁着横川

みく日中物来小野屋取

八月十余日中物小唐物次来中物

中物次來中物
小合和事

九月妹后鬼又系長谷子子少將君打基子

中將系小神事中將不意於空席事 中將不意

横川僧於出系次系小野母后事

手習姫君於僧於出家事

中將又系也答姫君出家之中事立成又道

妹后君自長谷下向事

横川僧於系加於夜后、次中系

僧於山之次系小野事信那字治院、变化物中系

中將系小野之妹后之事中將自北下隙及事

后君誓后君誓

七六系 大将

手習卷之抄云私記
考り八十四系の事

春始小野福居事

大后云々孫江守系小野事

小宰相若以僧於物治若大将系事

大将系中堂之次僧於横川事

大将系中堂之次僧於横川事

夢後稿卷

及大将系横川對面僧於物治事

大将四伴女事始僧於系物治不及事

大将欲為小野信僧於文事

考陸守子童為大将也其信於賜文於也童

大乃海系云々日坂童會於文也信也

童ハ手習系の身ハ先也ヨリと別由信於也

とわりの年立よ八十六
系と註もれども其
係ハ七七系の事之年
立よ八一年の相違わ
りて花もよ八三年の
お違わり也

如君在也 童海系

源氏物語年立一冊者故禪定閣下所製
作也件正本應仁大乱於桃防文庫為白
浪奪取畢爰經十年不慮感得之擇立物
于取喻此一帖以彼真本加書寫者也未
流布世間雖喜出窓外感教奇之志付屬
尤金吾訖深秘箱底莫令也見

永正七載季夏中吉 前博陸叟
後成恩寺殿御息 一条殿冬良公也

一幸與書云

右年立者愚身四代曩相後成恩
寺禪閣之述作也則以嘉祿秘本合書
焉者也頗後代了謂是鏡者也

桃花末葉
生年十五蒙心 書之

